

能登半島地震の現状と B C P

世界有数の地震大国といわれる日本。南海トラフ地震や首都直下型地震など、いつ発生してもおかしくないと指摘されています。防災グッズの用意や備蓄品の準備など、各ご家庭でも小さまざまな備えをしているのではないのでしょうか。

一方、企業においては BCP（事業継続計画）の重要性が高まっています。OTS でも定期的に BCP を見直し、更新を行うことで、万が一に備えています。先月 9 月に、自社の BCP をより強固なものにするため、各部門長が参加し能登半島地震の被災地を視察してきました。



■ 復興の現状

震災後こそ連日ニュースで報道されていましたが、震災から 1 年 10 カ月経ち、現在の能登を知る機会は多くはありません。今回は現地の方の話を直接聞くことができ、まだまだ復興には程遠い現状を知ることができました。

避難所閉鎖・仮設住宅整備

2025 年 4 月にすべての避難所が閉鎖され、仮設住宅・復興公営住宅の整備が急ピッチで進行中。

インフラ復旧

道路・ライフラインの復旧が加速し、通行止めは大幅に縮小。

地域再生への挑戦

解体撤去の進展と並行して、「創造的復興」プランや住民参加型まちづくりが始動。

産業・観光

輪島塗り等、伝統産業の再建や観光施設の再開も見られ、交流人口は回復の兆し。



▲地元ボランティアの方に、震災直後の状況や復興の難しさを聞くことができました。



▲営業を停止している加賀屋ホテル

■ 色濃く残る震災の傷跡

白米千枚田



震災と豪雨によって、多くの棚田でひび割れ、土砂崩れ、水路破損が発生した。人的、経済的な制約で復興は遅れており 1004 枚のうち 250 枚の田んぼでの田植え再開に留まっています。

加賀屋ホテル



和倉温泉でもっとも有名なホテルの一つ「和倉温泉 加賀屋」。建物には大きなひびが入っており、現在は営業を停止している。既存の建物は解体し、新館を建設しての営業再開を進めている。

インフラ復興の難しさ



能登の復興は、複雑な地形や脆弱な地盤に加え、過疎化と人手不足が大きな壁となっています。そのため道路やライフラインの再建は長期化し、地域再生には持続的な支援と時間が必要となります。

湯脈の変化



地震による被害は建物だけではなく、地下の湯脈も変化させてしまったということです。これまで湧いていた場所の温泉が枯れ、営業できなくなった温泉宿もあるということです。

■ 万が一に備えて、、、

震災後は水や電気の設備が使用できた能登空港が避難所として大活躍したそうです。今回は当時能登空港を急遽避難所として解放し運営していた責任者の方にお話を聞くことができました。

多くの有益なお話を聞くことができましたが、一番強く主張してお話いただいたのはトイレの問題でした。震災後はどの避難所もトイレを流すことができず、衛生面で大変劣悪な環境であったということです。今回の震災は真冬に発生しましたが、これが夏の時期であれば不衛生な環境から疫病の発生リスクが高まっただろうというお話しでした。平時ではトイレの問題をなんとなく避けてしまう気持ちもわかるが、人間生きていれば必要不可欠な物なので真剣に考え、いざという時の備えをしっかりとしてほしいと教えていただきました。

避難所を運営して気づいたこと（一部抜粋）

- 水の備蓄は 2L のペットボトルではなく、500ml の物が望ましい
- 備蓄米（ α 米）は 3 日で飽きる ⇒ スープやふりかけがあるとよい
- カップ麺の要望がとても多い
- 断水するとトイレは使えないことを念頭に簡易トイレを用意しておく
⇒トイレ問題が一番重要である
- 自宅でも会社でも備蓄品は必ず用意しておく（最低 3 日分、出来れば 1 週間分）
⇒寝るための毛布の用意が大切



▲能登空港

～ 編集後記 ～

今回初めて能登を訪れ、そこで実際に暮らす人々から大変貴重なお話を直接伺う事が出来ました。皆さん様にお話しされるのは「能登で起こった震災の事を忘れないでほしい」ということでした。ボランティアとして復興に協力する、旅行者として地域経済に貢献するという直接的な支援ももちろんですが、現地の方が望んでいるのは、同じ日本で大きな災害があり、そこには実際に暮らし、被災した人々がたくさんいて、元の生活に戻る補償も見通しも立たない状況でいるということを忘れないで欲しいと切実にお話いただきました。

私自身、その話を伺い反省する部分も多く、今回能登に実際に行くことができ本当に良かったと思いました。今では営業している宿泊施設も増えてきており、また温泉も非常に泉質がよい地域なので、皆さんもぜひ一度能登に足を運んでみてはいかがでしょうか。